

エンカウンター（ENCOUNTER）

第 16 号

平成 15 年 8 月 20 日

編集・発行人 〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西 2-14-28 山口周三
電話 045-912-1960

印刷・発送人 〒285-0844 佐倉市上志津原 34 佐藤れん
電話 043-487-7030

パウロの手紙より（5） コリント人への第二の手紙 1 章 4 ～ 6 節

神は、いかなる患難の中にいる時でも私たちを慰めてくださり、また、わたしたち自身も、神に慰めていただくその慰めをもって、あらゆる患難の中にある人々を慰めるようにして下さるのである。それは、キリストの苦難がわたしたちに満ちあふれているように、私たちの受ける慰めもまた、キリストによって満ちあふれているからである。私たちが患難に会うなら、それはあなたがたの慰めと救いのためであり、慰めを受けるなら、それはあなたがたの慰めのためであって、その慰めは、私たちが受けているのと同じ苦難に耐えさせる力となるのである。

3 章 17 節

主は霊である。そして、主の霊のあるところには、自由がある。私たちはみな、顔おおいなしに、主の栄光を鏡に映すように見つ、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく。

4 章 7 ～ 11 節

しかし私たちは、この宝を土の器の中に持っている。その測り知れない力は神のものであって、私たちから出たものでないことがあ

らわれるためである。私たちは、四方から患難を受けても窮しない。途方にくれても行き詰らない。迫害にあっても見捨てられない。倒されても滅びない。いつもイエスの死をこの身に負っている。それはまた、イエスのいのちが、この身に現れるためである。私たち生きているものは、イエスのために絶えず死に渡されているのである。それはイエスのいのちが、わたしたちの死ぬべき肉体に現れるためである。

4章16～18節

たとい私たちの外なる人は滅びても、内なる人は日ごとに新しくされていく。なぜなら、このしばらくの軽い患難は働いて、永遠の重い栄光を、あふれるばかりにわたしたちに得させるからである。わたしたちは、見えるものではなく、見えないものに目を注ぐ。見えるものは一時的であり、見えないものは永遠に続くのである。

6章2節

神はこう言われる。

「私は、恵みの時にあなたの願いを聞き入れ、

救いの日にあなたを助けた」。

見よ、今は恵みのとき、見よ、今は救いの日である。

6章8～10節

私たちは、人を惑わしているようであるが、しかも真実であり、人に知られていないようであるが、認められ、死にかかっているようであるが、見よ、生きており、懲らしめられているようであるが、殺されず、悲しんでいるようであるが、常に喜んでおり、貧しいようであるが、多くの人を富ませ、何も持たないようであるが、すべての物を持っている。

9章8節

神はあなた方にあらゆる恵みを豊かに与え、あなたがたを常にすべてのことに満ち足らせ、すべての良いわざに富ませる力のあるかたなのである。

10章17～18節

誇るものは主を誇るべきである。自分で自分を推薦する人ではなく、主に推薦される人こそ、確かな人なのである。

11章30節

もし誇らねばならないのなら、わたしは自分の弱さを誇ろう。

11章7～10節

そこで、高慢にならないように、わたしの肉体に一つのとげが与えられた。それは、高慢にならないように、わたしを打つサタンの使なのである。このことについて、私は彼を離れ去らせて下さるようと、三度も主に祈った。ところが、主が言われた、「私の恵みはあなたに対して十分である。わたしの力は弱いところに完全にあらわれる」。それだから、キリストの力がわたしに宿るように、むしろ、喜んで自分の弱さを誇ろう。だから、わたしはキリストのためならば、弱さと、侮辱と、危機と、迫害と、行き詰まりとに甘んじよう。なぜなら、わたしが弱いときにこそ、わたしは強いからである。

13章4節

キリストは弱さのゆえに十字架につけられたが、神の力によって生きておられるのである。このように、わたしたちもキリストにあって弱い者であるが、あなた方に対しては、神の力によって、キリストと共に生きるのである。

13章11節

最後に、兄弟たちよ。いつも喜びなさい。まったく者となりなさい。互いに励まし合いなさい。思いを一つにしましなさい。平和に過ごしましなさい。そうすれば、愛と平和の神があなたがたと共にいて下さるであろう。

ピリピ人への手紙

1章6節

あなたがたのうちに良いわざを始められた方が、キリスト・イエスの日までにそれを完成して下さるにちがいないと確信している。

2章3～4節

何事も党派心や虚栄からするのでなく、へりくだった心を持って互いに人を自分より優れたものとしなさい。おのおの、自分のことばかりでなく、他人のことも考えなさい。

2章13～15節

あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起こさせ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされるところだからである。

すべてのことを、つぶやかず疑わないでしなさい。それは、あなたがたが責められるところのない純真な者となり、曲がった邪悪な時代の只中であって、傷のない神の子となるためである。あなたがたは、いのちの言葉を堅く持って、彼らの間で星のようにこの世に輝いている。

3章5～8節

わたしは8日目に割礼を受けたもの、イスラエルの民族に属する者、ベニヤミン族の出身、ヘブル人の中のヘブル人、律法の上ではパリサイ人、熱心の点では教会の迫害者、律法の義については落ち度のない者である。しかし、わたしにとって益であったこれらのものを、キリストのゆえに損と思うようになった。わたしは、さらに進んで、わたしの主キリスト・イエスを知る知識の絶大な価値のゆえに、いっさいのものを損と思っている。キリストのゆえに、わたしはすべてを失ったが、それらのものを、ふん土のように思っている。

3章10～14節

すなわち、キリストとその復活の力とを知り、その苦難にあずかって、その死のさまとひとしくなり、何とかして死人のうちからの復活に達したいのである。わたしがすでにそれを得たとか、すでに完全なものになっているとか言うのではなく、ただ捕らえようとして追い求めているのである。そうするのは、キリスト・イエスによって捕らえられているからである。兄弟たちよ。わたしはすでに捕えたとは思っていない。ただこの一事を努めている。すなわち、後ろのものを忘れ、前のものに向かって体を伸ばしつつ、目標を目ざして走り、キリスト・イエスにおいて上に召して下さる神の賞与を得ようと努めているのである。

3章17節

兄弟たちよ。どうか、わたしにならう者となってほしい。また、あなたがたの模範にされているわたしたちにならって歩く人たちに、目をとめなさい。

3章19～20節

彼らの最後は滅びである。彼らの神はその腹、彼らの栄光はその恥、彼らの思いは地上のことである。しかし、わたしたちの国籍は天にある。

4章4～7節

あなたがたは、主にあっていつも喜びなさい。繰り返して言うが、喜びなさい。あなたがたの寛容を、みんなの人に示しなさい。主は近い。何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈りと願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。そうすれば、人知では到底図り知ることのできない神の平安が、あなたがたの心と思いとを、キリスト・イエスにあって守るであろう。

4章 11 ~ 13節

わたしは、どんな境遇にあっても、足ることを学んだ。わたしは貧に処する道を知っており、富における道も知っている。私は、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、ありとあらゆる境遇に処する秘けつを心得ている。わたしを強くして下さるかたによって、何事でもすることができる。